



歴史に輝く女性たち ③

平和なくして平等なし  
平等なくして平和なし

Q

選挙浄化を訴え続けた市川房枝は「出たい人より出したいひと」をスローガンに、有権者が候補者を推薦してカンパを資金に手弁当の運動でおしだす、という選挙方式を提唱しました。それはなんと表現されたでしょうか。

- ① 民主選挙 ② 理想選挙 ③ 公平選挙
- (答えは末尾に)

市川房枝は愛知県に生まれ、小学校教員・新聞記者を経て、1918年25歳で上京します。日本初の労働組合・友愛会婦人部書記になり、英語を学びつつ翌年には平塚らいてう等と新婦人協会を結成。女性の地位向上と権利獲得を目的とした最初の婦人団体でした。その3年後渡米し、婦人参政権運動家のアリス・ポールと交流。帰国後は1927年『婦選獲得同盟』を結成し、本格的に婦人参政権を要求する活動に邁進します。しかし軍事政権下にあつて運動は苦難の連続でした。ところが第二次世界大戦の敗戦で大きな節目

市川房枝

(1893 ~ 1981)

を迎えます。アメリカ占領下の1945年、衆議院議員選挙法が改正され、女性にも参政権が法的に認められました。最初の参議院選挙では79人も女性が立候補し39人が当選するなど、予想外の数の女性の政治参加には日本のみならず世界が驚きました。一方、市川房枝は戦後3年7か月間被選挙権を剥奪されます。戦時中『大日本言論報国会』の理事だったことが戦争への女性動員の協力者とみなされGHQによって公職追放されたのです。

しかし、市川房枝は「正しい選挙こそ民主政治の基本」と説き続け1953年60歳で参議院議員に当選を果します。以後5回当選、通算24年間を革新無所属の国会議員として政治浄化に心血を注ぎました。生涯に渡り「生活と政治は表裏の関係。女性をもっとも関係が深い」と主張し女性の政治学習を支え続けました。その意志は現在の『市川房枝記念会』に引き継がれ、多くの女性たちの学習と活動の拠点となっています。

【クイズ答え②】

◇◇ ジェンダー統計 ◇◇ 町・市議会議員選挙

1945年選挙法が改正されて60年。男女平等に政治参画する権利を得て、人々の政治への関心はどのように変化したのでしょうか。地方議会議員選挙が全国一斉に実施された1947年から合併後の2002年までの、旧田無市・保谷市と現西東京市の主な町・市議会議員選挙の女性立候補者・女性当選者・男女別の投票率を追ってみました。

(単位：人・%)

年度	町・市	立候補者			当選者			投票率		
		総数	女性数	女性割合	総数	女性数	女性割合	総数	女性	男性
昭和22年 (1947年)	田無町	32	0	0	26	0	0	投票者数 4.644		
	保谷町	37	2	5.4	26	2	7.7	投票者数 3.993		
昭和26年 (1951年)	田無町	35	1	2.9	26	0	0	91.3	91.7	90.9
	保谷町	38	4	10.5	26	3	11.5	78.6	79.3	77.8
昭和38年 (1963年)	田無町	36	5	13.9	26	3	11.5	68.3	71.0	65.5
	保谷町	36	5	13.9	26	2	7.7	56.0	57.3	54.6
昭和46年 (1971年)	田無市	31	4	12.9	26	4	15.4	63.9	66.9	60.8
	保谷市	36	3	8.3	26	1	3.8	61.7	65.4	57.9
昭和54年 (1979年)	田無市	30	4	13.3	26	4	15.4	58.7	62.2	55.3
	保谷市	34	4	11.8	26	4	15.4	61.0	64.9	57.1
昭和62年 (1987年)	田無市	31	6	19.4	26	4	15.4	56.5	60.1	52.9
	保谷市	29	4	13.8	26	3	11.5	55.6	59.4	51.9
平成3年 (1991年)	田無市	27	5	18.5	26	5	19.2	50.6	54.5	46.8
	保谷市	28	4	14.3	26	4	15.4	51.9	55.8	48.0
平成14年 (2002年)	西東京市	39	10	25.6	38	10	26.3	42.6	45.2	39.9

(都選管調)

旧保谷町の第1回目の町議選では2名の女性が初当選をはたしました。また26年の旧田無町の投票率は90%を越えています。女性の投票率は常に男性を上まわっていますが、立候補

者数・当選者数ともに女性の比率は低迷しています。また、男女ともに投票率は年々低下し続けており、政治への関心の行方が懸念されます。